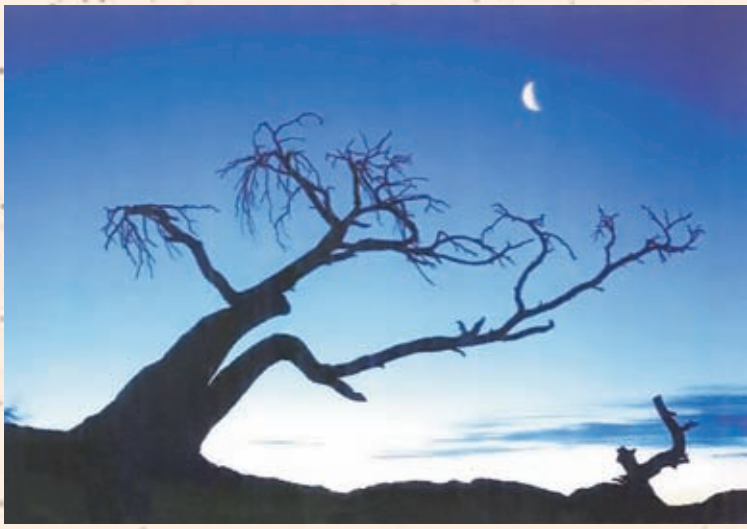


おらほの 歳時記 2011

二十六夜様(神)



二十六夜神は、「正五九」と言っており、旧暦の一月(新暦二月)、五月(新暦六月)、九月(新暦十月)の年三回拜むことができます。ただし、その時間は、その月の丑三つ時(午前二時過ぎ)に十五秒から三十秒の間のみ、ご利益があると言われています。それは、月が始めて燈明のよつに紅く燃えている間だけです。

その間に願い事を唱えようと叶うとされています。

その時が過ぎると、月は紅い炎が消えて、三日月の反対の弧を描いて中天に昇ります。しかし、その時間帯に霧がかかったりすることがあるので、その時に巡り合うことはなかなか難しいと言われています。

金山町の場合は、「きごころ橋」の上から望む神室山の真上に現れます。

また、江戸時代は、正月、七月の二十六夜半に出る月を「二十六夜待ち」と呼



二十六夜様の見え方

び、月光の中に、阿弥陀佛・観音・勢至の三尊が姿を現すといい伝えられています。

文責 西田 忠 (十日町)

おらほの方言短歌

どよ行ぐや 声かげだども へんずすね
(どよくの、声をかけられども 返事がない)
むげえのづつあ 聞けねなだべが
(向かいのおじさん きこえないのだから)

足利がね 口は利くども 腰伸びね
(足が不自由で しゃべることは達者でも 腰が伸びない)
んだども 婆つつあ ままたんと食う
(だどもはおちゃん ごはんをたくさん食べる)

敬老会 昔馴染みの 語り合い
まめだったがや 生ぎったばんだ
(元気でしたか? どうにか生きてるだけ)

作品は 西田 忠さん(十日町)

おらほの歳時記は、今月号をもって連載終了といたしました。これまでご協力下さった皆様に感謝申し上げます。

お知らせ

「広報かねやま」で取り上げてほしい話題や特集、写真や資料等の情報がありましたら掲載をご検討いたします。

今年度より、「広報かねやま」(お知らせ版を含む)は、文字の大きさを大きくし、写真をなるべく多く掲載できるように心がけています。

親しみやすく読みやすい広報誌になるように、また町民のみなさんの関心が高まるように工夫していきたいと思っております。

ご意見・ご要望などがありましたら、お気軽に役場総務課・広報情報係までご連絡をお願いいたします。